

2020

数字から見る
日本

今月の提案 Vol.75

新型コロナウイルスの震源地 中国・湖北省 武漢

～三国志の時代から栄えた、人口1100万人超の交通の要衝～

中国・湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルスによる肺炎は、日々感染者数、死亡者数が倍々ゲームのように増え、どこまで拡大するのか恐怖となっている。

中国の衛生当局によると、中国本土での感染者数は2月4日までに2万人を超え、死亡者数は425人に上り、2003年に流行したSARSを大幅に上回り拡大している。

感染者は全世界に広がり、日本人国内においても発見当初は武漢からの中国人の観光客などが主であったが、1月28日時点では、武漢からの観光客の送迎を務めた奈良のバス運転手の感染が発表された。武漢への渡航経験はなく、旅行者からのヒトヒト感染であることで脅威を広げている。また29日から武漢在住の日本人向けの帰国用の政府チャーター機の運用も行われた。

そもそもこの新型コロナウイルスによる肺炎は、世界保健機関(WHO)の中国事務所が未知のウイルスについての第1報を受けたのが、2019年12月31日のことだった。このウイルスは、のちに新型コロナウイルスであることが判明し、武漢市で集団発生した肺炎の原因となっている。わずか1カ月も経たない内に、SARSを超える感染の広がりを見せており、その勢いはどこまで行くか想像さえできない状況である。

さらには、従来の感染症と異なり、発症していなくても感染するという特徴があり、予防がとりにくいという。

中国政府はこの震源地とされる武漢に対して1月23日に封鎖し、さらには27日から団体での海外旅行が出来ないように規制をかけ、春節休暇を2月2日まで延長するなど、必死の対応をしている。

武漢の面積は兵庫県とほぼ同じの8569km²。人口は1108万人超。中国ではトップ10に入る人口で、神奈川県が920万人、大阪府は880万人が全体の人口なので、相当大きな街であることが想像できる。ホンダや日産などの工場を構える自動車産業の街でもある。

日本での知名度はこれまで高かったとはいえ、中国ビジネスを行っている方々には知られているという程度であった

中国本土における新型コロナウイルス拡大状況

■ No cases ■ 1 to 50 ■ 51 to 100 ■ 101 to 500 ■ More than 500

20 Jan: 291 cases



22 Jan: 446 cases



24 Jan: 864 cases



26 Jan: 2,021 cases



28 Jan: 4,524 cases



30 Jan: 7,711 cases



More than 4,500 cases in Hubei Province

出典：BBC

と思われる。街の中心部にはアジアで有名な長江が流れており、三国志の時代から既に栄えている。

さらには北の北京、東の上海、南の広州、西の成都のほぼ真ん中に位置しており、高速鉄道網が整備された今日、ビジネス拠点としての利便性が高まっている。逆に言えば、感染症が伝搬しやすい条件が整っている。中国政府の発展戦略においても武漢は重要視されており、沿海部と内陸部の格差縮小のための「中部崛起」計画(2006年～)、長江沿岸地域の開発の連動のための「長江経済ベルト」(2015年～)においてそれぞれ中心的な役割が期待されている。

【参照】

武漢市ってどんなところ？三国志の舞台 桜の名所
<https://www.data-max.co.jp/article/33739>



美楽からの一言

今回の新型コロナウイルスは、元々コウモリから野生動物に感染し、それを食用としていることから武漢が震源地になったと言われているが、経緯など解明されていない。他国の食文化をあれこれ言うのも良くないが、やはり不衛生な環境や食材の扱いは改善されるべきであろう。